

# 令和 6 年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和 7 年 2 月 1 0 日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
安心・安全な学校づくり 心の居場所がある教育環境の整備	自己肯定感を高め合う活動の充実	美点を見つける目を子ども・教職員が持ち、相互評価を行う。互いの良さを認め合えるよう働きかけ、大切にしよう喜びを味わわせる。	B	B	・「よいとこ見つけ」や「ありがとうカード」などを通して、子どもも教職員も、互いに認め合い、美点を見つける姿勢を身につけることができた。 ・生活サポート情報交換会で、気になる子の様子を共通理解し対応を考えることができた。困り感や不安を感じている子を SC につなぎ、早期対応に努めた。 ・避難訓練やシミュレーション研修を計画的に行うことができた。	A	・どの学級もよい表情で授業を受ける子どもたちの姿を見ることができた。先生と子どもとの信頼関係が築けていると感じた。 ・夏季は異常気象下の登下校になり、今後も続く暑い日の登下校が心配である。 ・通学路に車が多く対策が必要である。	・気象状況や子どもの様子に合わせ、活動の可否を判断したり、内容を変更したりする。子どもの健康状態を常に把握し、養護教諭と連携し迅速に対応する。 ・登下校の安全については、保護者の旗当番や地域の見守りの方との連携を強化して情報を収集し子どもの指導にあたる。また、学活や通学団会等をつかって、子ども自身が、自分の身は自分で守ろうとする意識を高める。
	心身の健康状態の把握	心身の健康状態把握に努め、よく話を聞く。早期発見・対応につとめ、サポート委員会、スクールカウンセラーなどを機能させる。	A					
	危機管理と迅速な対応	自然災害、熱中症・感染症、交通安全、校内施設の整備等に迅速に対応する。教職員全員へ危機管理意識を高揚させ、実効性のあるシミュレーションや避難訓練を実施する。	B					
個が輝く授業・教育活動の追究	自ら学ぶ意欲を引き出す支援の充実	子ども一人一人が目的や目標をもち「読む」「書く」「考える」「伝える・聞く」という行動に意欲的に取り組む。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをおもしろく、おもしろいことを深く」学べるよう支援する。	B	C	・教材や教具の工夫、具体物の活用や基礎・基本的な学習の繰り返しなどを通して、「できた」「わかった」「楽しい」と実感する子が増えた。 ・一人一人が主体的に学ぶ問題解決的な学習の実践を旨として、教科ごとの授業づくりをベテラン教員に学ぶ研修を行った。 ・心を育てる道徳の授業では、自我関与や役割演技などを積極的に取り入れて学びが深まるよう努めた。	A	・何を聞かれているか理解をし、自分の意見をしっかりと伝え、自信のある顔つきがとてよかった。 ・子どもたちにしっかり考えさせている授業があった。 ・活気がある学級もあるが、全体的に静かに思った。 ・できない子へは先生からやさしく声をかけてもらえば、伸びると思う。	・子どもたちが主体的に学ぶ姿勢や学ぶ楽しさを味わえる問題解決的な学習を実践するために、授業研究会を通して、学び合う機会を設定する。 ・子どもの考えの根拠となる体験的活動や調べ学習を積極的に取り入れる。 ・学習内容の理解に時間がかかる子には、つまずきに丁寧な寄り添い、「できた」「わかった」を少しずつ積み重ねられる指導をしていく。
	問題解決的な学習の実践	子どもの思いを大切にしたい問題解決的な学習の実践、切実感のある単元を構想し、体験的な活動や伝え合う活動を取り入れた問題解決的な学習を実践する。	D					
	心の教育の推進	心の教育に努め、生きて働く知識や道徳の実践力を高める。道徳の授業を要として、読書や体験活動、伝え合う力や体（健康）づくり、家庭学習などとも関連する。	C					
信頼される教師集団の育成	授業力の向上	常にチャレンジマインドをもつ。研修を重ね、個の輝く授業実践に邁進する。	B	B	・授業研究会を通して、全職員が授業について考え、話し合うことで学ぶことができた。 ・学年会等で、若手教員が、ベテラン教員に学級経営や子どもや保護者との関わり方を学び、力量向上を図ることができた。 ・保護者には、状況に合わせて連絡帳や電話、連絡アプリ、家庭訪問などで連絡をして、信頼関係を築けるよう努めた。	B	・職員の教育が行き届いていてとてもよいと思う。 ・連絡ノート等での子どもたちと先生とのやり取りのおかげで子どもたちの精神面への声かけができています。 ・発表している子の顔を見ずに機械操作にかかりきりになっている先生がいたのが少し気になる。	・目の前の子どもを見つめ、思いや考えに合った授業を構想し、日々の授業を大切に。授業研究に積極的にチャレンジしたり、授業を公開したりする場を確保する。 ・言葉や態度で保護者との間に誤解が生じないように細心の注意を払う。小さな問題でも一人で抱え込まず、気軽に相談できる体制をつくる。
	組織力の向上	「チーム岩西」の組織力アップに貢献する。相談や相互評価を行い、教職員一人一人の自己肯定感を高める。	B					
	学校・家庭の双方の信頼関係の構築	家庭・地域との信頼関係を構築する。問題行動に迅速かつ適切に対応する。日ごろからの情報の発信に心がける。幼保小中、園との協力関係を大切にする。	B					
家庭・地域との連携推進	家庭・地域との積極的な関わりと連携	岩西小から校区へ気持ちのよいあいさつや返事を発信する。相手を大切にする正しい言葉遣いをする。各種活動・行事などを通して、校区からの具体的な声を吸収し、次の活動へ生かす。	B	B	・総合的な学習で、校区の店や施設への探検、特別支援学校との交流、地域の方を招いての栽培活動などを行い、地域と関わり、地域への思いを深めることができた。 ・保護者には、授業参観や行事などについて感想や意見をいただいた。改善すべき点については、各部会等で話し合い、次年度に向けての方向性を考えることができた。	B	・下校時の見守りをしてくださる方のおかげで安心して下校できると思う。 ・毎朝立ち番ボランティアをしているが、挨拶を返してくれない子が 1/3 ぐらいいる。 ・「こんにちは」と声をかけてくれる子がいて、とても気持ちがいい。	・保護者や地域の方に、ボランティア以外にも、出前講座や学校保健委員会など、子どもたちが学ぶ場、活躍する場への保護者の参観を呼びかけ、学校教育活動をより理解してもらえるようにする。 ・気持ちのよい挨拶を通して子どもと地域がつながるように、なぜ挨拶が大切なのか考えたり、地域の方の声を紹介したりして、地域との温かい関係を築く。
	i ボランティア等の参画	i ボランティア等地域の力を活用する。地域の方々の力を借りて、子どもの活動の充実や学びの補充・深化を目指す。校区の方々と触れ合いの中から、地域愛、郷土愛など、豊かな心の育成を図る。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記の A・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】